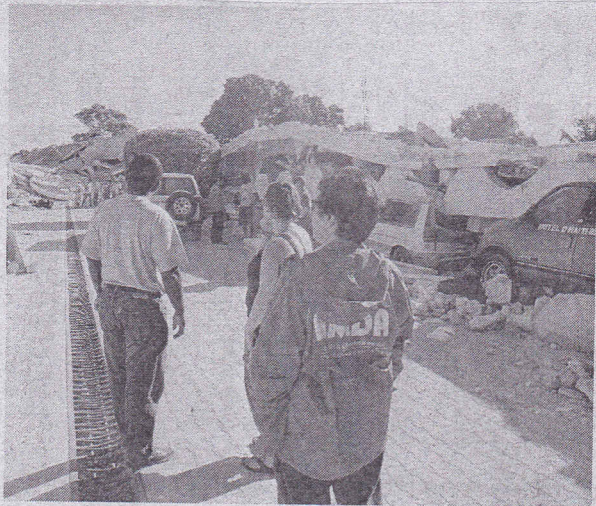


ハイチの首都付近で倒壊した建物。AMD A提供



義足支援を準備

ハイチ大地震

AMD A 帰国の調整員報告

ハイチ大地震を受けて緊急医療チームを被災地に派遣している国際医療救援団体「AMD A」(本部・北区)のニティアン・ウィーラバグ調整員(41)が10日、帰国会見を開いた。

AMD Aは手足を切断した患者向けに義足支援プロジェクトを進めており、隣国ドミニカ共和国の病院でその準備

をしていることなどを報告した。ウィーラバグ氏は1月15日に成田空港を出

発。医師や看護師らと一緒に、ハイチの首都ポルトプリンスから北約60キロのサンマルク、ゴナイブ、隣国ドミニカ共和国のヒマニの病院などで活動した。

現状については「家屋の状態が回復していないまま住んでいる人もいるため、5月からの雨期で強い雨やハリケーンがあった場合に流される可能性がある」と懸念を示した。また、発生から約4週間を経ても整形外科手術を待つ患者が相当数いるといい、「被災者が首都から他都市への移送中に十分なケアを受けられずに負傷が悪化するケースもある。多くの患者が手

当てが間に合わずに手足を切断した」と話した。

義足支援プロジェクトは、ドミニカ共和国で治療中のハイチ地震

被災者も視野に入れて準備している。切断の傷が落ち着く4〜5月ごろに始動し、約1年間行う予定。

【椋田佳代】